

## 第639回

# 九州朝日放送番組審議会議事録

—— 2022年1月度 ——

◇ 開催日

2022年1月17日(月)

◇ 議題

<テレビ番組>

「アサデス。7」（2放送日分）

放送日時： 9月16日（木）午前9時55分～10時30分

10月28日（木） 同 上

◇ その他

「新型コロナウイルス」感染防止のため、リアルとオンラインを併用して開催。

九州朝日放送株式会社

## 第639回 番組審議会議事録

1. 開催年月日 2022年1月17日(月)午後4時00分～5時05分
2. 開催場所 「新型コロナウイルス」感染防止のため、  
リアル（九州朝日放送 本社7階A会議室）とオンラインを併用して開催。

### 3. 委員の出席

委員総数 8名  
出席委員数 7名

|      |    |     |
|------|----|-----|
| 委員長  | 赤木 | 由美  |
| 副委員長 | 石橋 | 和幸  |
| 委員   | 田川 | 真司  |
| 委員   | 中山 | 裕二  |
| 委員   | 石井 | 靖子  |
| 委員   | 藤村 | まこと |
| 委員   | 丸石 | 伸一  |

欠席委員数 1名（レポート提出）

|    |    |     |
|----|----|-----|
| 委員 | 上野 | 恵梨奈 |
|----|----|-----|

### 放送事業者側出席者名

|                        |    |     |
|------------------------|----|-----|
| 代表取締役社長                | 和氣 | 靖   |
| 執行役員                   | 岩村 | 智   |
| 報道情報局長                 | 柴田 | 高宏  |
| 総合編成局長                 | 大保 | 一   |
| 報道情報局 報道情報センター長        | 西村 | 香織  |
| 報道情報局 報道情報センター アサデス。GP | 野村 | 友弘  |
| 報道情報局 報道情報センター プロデューサー | 尾林 | 江津子 |
| 番組審議会事務局長兼視聴者・広報室長     | 園田 | 哲也  |
| 番組審議会事務局（視聴者・広報室）      | 松永 | 俊郎  |

#### 4. 議題

(1) テレビ番組 「アサデス。7」(2放送日分)

放送日時： 9月16日(木) 午前9時55分～10時30分

10月28日(木) 同上

(2) 2022年1月・2月 ラジオ・テレビ番組編成状況の報告

(3) 2021年11月・12月 視聴者・聴取者応答状況の報告

(4) その他

#### 5. 議事の概要

委員の意見(概要)

番組全体に対して委員からは、

- 九州・山口ブロック7局の共同制作で、各地の旬な話題がコンパクトにまとめられていた。内容も楽しく「この商品を買いたい」「ここへ行きたい」と思わせる視聴者の行動につながる非常に好印象の番組だった。
- 紹介された内容はどれも(番組を)見て「もうかった」と思うのに十分な内容だった。画面の右上に表示されるQRコードは番組ホームページと連動しており、盛りだくさんの情報を後でゆっくり確認できるようになっていて良かった。
- 出演者は清潔感があり親しみやすく、出演者が自分自身の言葉でのびのびと表現しており番組コンセプトに合っている。
- 視聴者により親しみを持ってもらおうと出演者の名前テロップにプライベートな情報を盛り込む取り組みは良い。同じような境遇の出演者に親しみが沸きコメントをより想像しやすかった。
- テレビはキャスターの個性も含めた「感情」を伝えることができる唯一のメディアであり、異なる価値観を持つ人たちが同じ場を共有できる部分がテレビの役割だ。今後も地元寄り添った番組づくりと視聴者が応援したくなるような番組づくりに期待する。

などの評価を頂きました。

一方、気になる点や望むこととして、

- グルメやエンタメに関する情報が多いように感じた。家事以外のお役立ち情報や社会や仕事に関することも取り上げてはどうかと思う。
- 九州・山口ブロック7局の共同制作とのことだが、福岡以外の地域の情報が少ない。
- 「アサデス。7(セブン)」というタイトルは、朝の7時からの番組と勘違いする。
- 「アイタカー中継」は少し慌ただしく感じた。取材対象者との掛け合いをしたり、偶発的に生じるアクシデントも見なかった。

などの批評や提言を頂きました。

また、9月16日(木)の内容について、

- 豪雨で被災した天ヶ瀬温泉の話題を取り上げるも、新型コロナの影響でカメラのみ中継となっていたが、地域の「生の声」と斉藤ふみさんのやりとりが心地よく、復興の様子や地域の元気を伝えていた。コーナーのタイトルは「ごちそうリレー」だが、食べ物に限らず、被災や復興に関わるエピソード、被災者への取材が番組の魅力を高めていた。
- 豪雨で被災した旅館を経営する古賀さんの明るいトークに元気をいただいた。古賀さん夫妻と斉藤さんのやり取りから斉藤さんの人柄を感じた。和菓子店と斉藤さんの1年越しの約束が実現したことにも感動した。

そして、10月28日(木)の内容について、

- 「マスト Buy なアイテム」のコーナーは、コロナ禍でのお取り寄せやお手軽スイーツの紹介など時代に対応した構成になっていた。コロナ禍で苦戦する飲食業界の支援にもつながった。ただし、5000円のお取り寄せ鍋は主婦目線で言えば少し高いと感じた。
- ネスレの商品紹介にかなりの時間が割かれ広告かと思ったが、商品を使った料理の紹介もあり押し付け感なく楽しく見ることができた。酸化を防ぐ開封時のポイント（工夫）には衝撃を受けた。
- 「ミミヨリいいトコ中継」はカキ小屋からの中継で季節を感じたが、MCの「ずるい、ずるい」等のコメントはあまり気持ちのよいものではなかった。

などの評価や批評、提言を頂きました。

これらに対して、担当者からは、

- 出演者の個性を生かし自由に話ができる雰囲気づくりを心掛けている。出演者には視聴者が共感するような率直なリアクションを求めており、より親近感を抱いて見ていただけるように努めている。ただし、ぎっくばらんな表現が「不快」となるような部分は今後の改善点。
- 天ヶ瀬温泉は過去に「九州・山口 ごちそうリレー おうちレストラン」という企画で紹介しており、今回は被災後の様子取材した。斉藤さんと取材対象者や番組スタッフの関係性が整っていたので苦しい状況下でも楽しそうな様子を紹介することができた。「(コロナの影響で)容易に会えないけれど、応援しています」という気持ちを上手に表現できたと思う。
- 営業と一緒に制作しているコーナーもあるが、単なる広告にならないよう、視聴者が得する情報にできるよう努めている。
- 三澤アナウンサーがオンエア直前にインスタライブに取り組んでおり、当日の放送内容の一部などを紹介している。地道な活動ではあるが、次第にフォロワー数を増やしている。
- 一部のコーナーのバタバタ感や紹介する商品の価格設定などについて、まだまだ工夫の余地がある。感情が見える内容に作り込む企画と情報を入れ込んだ内容にする企画があるが、トライ&エラーを繰り返しながら、より良い番組にすべく試行錯誤を重ねている。

などの説明をしました。